令和4年度　小平市立花小金井小学校　学校評価報告書

学校教育目標

人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童（かしこく　つよく　やさしい子）を育成する。

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　楽しくて明日を心待ちにする学校
【目指す児童・生徒像】　主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童　健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力する児童　自他を尊重し、人の喜ぶ姿を見て喜べる児童
【目指す教師像】　児童を愛し児童の良さや個性を認め伸ばす　子どもたちに笑顔と明るい声で接する　より良い授業を目指し研鑽を積み、楽しくわかりやすく力を付ける授業を実践する

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】 音読、計算、漢字指導の充実により、基礎学力を定着させた。体育授業や体育的活動によるパワーアップカード等の活用により、体力向上につなげることができた。
【課題】 いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みが十分ではなかった。いじめの対応の充実に向け、学校組織全体で一丸となって取り組む体制の強化を図る。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	・算数におけるTBDの活用、習熟度別学習の実施 ・ICT機器の活用	4	4	・全体的に学力調査等の数値は高いが、学年によって基礎的内容の定着に偏りが見られる。 ・毎日の授業観察、学期1回の授業観察、週ごとの指導計画等を活用し、教員のICT指導力を向上させる。	4	4	・適切な教材を使用し、目標を達成している。指導方法も工夫している。 ・多様な子どもの学力、習得力に対してどんな評価をするのか検討が必要。 ・二極化対応としてTBDの活用をもっと進めた方が良い。	・学力調査等数値は高い傾向にあるが、学力層の二極化傾向が見られる。 ・学力層に応じた個別最適な学びの充実に向け、1人1台端末の習熟度別活用方法を検討する。
	・自力解決の時間が確保された授業改善 ・ICT機器の活用	4	3	・学級間によって端末の活用に差が見られる。 ・端末活用モデル学級の指定及び試行と2学期授業観察共通課題として端末活用を設定する。	4	4		・教員間で、自力解決が何を指すのか共通理解ができず、十分な指導改善が進まなかった。 ・自力解決プロセスの焦点化、全教員の共通理解に基づく授業改善に取り組む。
健全育成（いじめ防止）	・全教員による情報の共有 ・チェックリストによる実態把握 ・教職員研修、いじめ防止授業の実施	4	4	・いじめ認知、対応についての教員理解を一層深めていく必要がある。 ・毎週の夕会、定期的ないじめ対策委員会等により、いじめについての理解を深める。	4	2	・いじめについての情報交換の質、量が向上している ・いじめについて常に関心をもち、真摯に対応している。 ・チーム花小で組織的に取り組んでいる。 ・コロナの影響もあるが以前のような交流がまだ少ない。	・いじめの重大事態を1件発生させた。いじめの未然防止の徹底、解消率を高めていく。 ・教職員の初期段階でのスピーディーな情報共有、学校いじめ対策委員会を核としたいじめ対応の徹底を図る。
	なかよし班・委員会、クラブ活動など異学年交流の実施	3	3	・新型コロナウイルス感染症対策等の関係から異学年交流の学習のねらいに迫ることが難しかった。 ・新型コロナウイルス感染症対策の変化を踏まえ活動基準を設定する。	4	4		・新型コロナウイルス感染症の活動制限により学習のねらいにせまることが難しかった。 ・新型コロナウイルス感染症対策の変化を踏まえた活動基準や活動内容を明確にする。
健康づくり	体育授業におけるコオーディネーショントレーニングの実施	2	2	・全教員の共通理解が十分ではなく、体育学習での効果的な実践ができていない。 ・担当による校内研修等を通じて、全教員による共通理解、共通実践の充実に取り組む。	1	3	・体育とコーディネーショントレーニングのつながりを明確にしたい。 ・体力向上が実施されていることはよい成果である。 ・学年による差があることは大きな問題ではないと考える。	・主にパワーアップ朝会での実施となった。 ・体育学習への効果的な組み入れが難しかった。体育学習との効果的な関連付けについて検討する。
	「持久走タイム」「なわとび旬間」等の実施	3	3	・新型コロナウイルス感染対策を踏まえた指導計画の検討が必要である。 ・長縄、持久走など、業間体育の実施により運動好きの児童の育成に取り組む。	4	4		・休み時間や体育学習で取り組み、児童の運動意欲の向上につながった。 ・なわとび旬間が4月の実施のため、学級での取組に差が生じた。次年度は、開始時期等について検討する。
保護者・地域との連携	学校だより、学年だより、学級通信、ホームページ等による情報発信	3	3	・ホームページの更新回数は中間目標値を超えたが、発信内容については、学年、担当により偏りが生じた。 ・情報発信年間計画に沿った情報発信に取り組む。	3	3	・学校は適切な情報発信をしている。学年によって情報量が異なることが気になる。 ・教員の負担にならない発信方法を見つけることが必要。 ・様々な年代の方への情報発信方法について検討を。 ・外部ゲストをよく受け入れている。	・学校だより、ホームページ、スクールメールなどを使って目標値を超える情報を発信したが、発信内容は、学年、担当により偏りが生じた。 ・1人1台端末を活用した家庭への情報発信を検討する。
	全学年で地域・外部等の専門家を招いた授業の年間1回以上の実施	4	4	・新型コロナウイルス感染対策を踏まえた外部講師を招いた指導計画の検討が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら指導計画を見直し、実施する。	4	4		・外部講師への依頼が担当者任せとなり、担当者不在時の連絡体制に課題が残った。 ・外部講師リストの作成と外部講師コーディネーターを選出し、持続可能な体制を構築する。
業務改善・働き方改革	校務のICT化、人材の活用、会議等の精選	2	1	・SSS、副校長補佐の十分な活用ができていない。 ・教員のSSSの職務についての理解促進、業務依頼体制の簡素化の推進。	2	1	・SSSの増員をすれば業務改善につながる。 ・個人の努力では限界がある。 ・人材活用でかなりの成果があった。 ・地域交流に先生が参加できる機会が増えれば良い。	・業務効率化に向けた課題について未着手のものがある。 ・校内組織の再編、会議等の精選、ハンコレス化、外部人材による学校支援協力体制等について検討する。
	出退勤管理システムの活用や定時退庁日、学校一斉閉庁日の実施	2	1	・教員のタイムマネジメント意識を高める必要がある。 ・校長室だより、職員会議、学年会等を活用した教職員への意識啓発。	2	1		・33％の教員が月45時間を超える時間外勤務をしている。 ・校長室だよりでの啓発や職員会議、学年会等を活用し、教職員のタイムマネジメント意識の向上に取り組む。